

Free School
since 2004
in Osaka

Miwano 通信

vol.5

[もくじ]

- ✧ 活動報告 (中居史/今川将征)・・・1
- ✧ 情報誌プロジェクト報告 (中村有美)・・・3
- ✧ 運営レポート (今川将征)・・・4
- ✧ 「まんま会」に参加して (岩崎智美=寄稿)・・・4
- ✧ コラム (松浦豊)・・・5
- ✧ けいじばん・・・6
- ✧ スタッフひとこと・・・7
- ✧ 編集後記 (中村祥規)・・・8

◆ 活動報告

<バンド活動>

ようやく各楽器、メンバーが揃ったのでバンドを結成しました！ みなもで今、一番活気のある活動かな？ 現在、曲やジャンルで分けた3つのバンドがあります。メンバーはそんなに変わらないですけど(笑)。主にザ・ブルーハーツの曲を練習しているものと、オリジナル曲が中心のヴィジュアル系を目指しているバンド。そしてフリースクールフォロと合同でバンプ・オブ・チキンの曲を練習しているバンドがあります。以前は不足していたギター要員が増えたので、より活動的になりました。どのバンドも今は女の子の方が多く、男の子を募集したいということなので興味がある方は是非見学に来てみてください！ もちろん女の子も大歓迎です^^ オリジナル曲を作るなどの技術的

なことを教えてくれる方も募集しています。11月11日に神戸市兵庫区のオルタナティブスクール・ラミ中学校分校さんが行う「ラミ中祭」というイベントがあり、そこで演奏してもらってもいいよと言ってくれているので、参加するかもしれません(^_^) (史)



スタジオを借りての練習。目いっぱい楽器を演奏できます。

<大掃除>

去年なかなか掃除する機会がつかれず、パソコンラックの下など結構ホコリが溜まっていたので、7月13日に皆で大掃除をしました。棚を拭いたり、本棚を整理したり、絨毯に掃除機をかけたりと暑い日に汗をかきながら頑張りましたよ！ あちこちに置いてあるゴキブリホウ酸ダンゴにビクビクしながら掃除機をかけるなんてこともあったり・・・。掃除が終わった後はお菓子とジュースを囲んで大掃除の達成感に浸っていました♪ 皆、あの時はお疲れさまでしたー。(史)

<声研>

前回に引き続き声研です。フリースクールフォロの方達と合同でシナリオ・キャラ設定から作ったオリジナルボイスドラマのHPが完成しました☆「最後に見た夢」<http://saigoni-mitayume.cocolog-nifty.com/>。内容はファンタジーもので、BGMやSEも入っていたりとなかなか本格的です。戦闘シーンも迫力があり、その場面が浮かんでくるくらい^^こうやって録音していくと上達具合が分かりやすいですね。うーん、しかし続きが気になる(笑)(史)

<海に行くぞ!>

今年も海に行きました! 車でゴトゴトと和歌山まで……。昨年と同じトコです☆そして夏休み直前だったので、人少なっ! ほとんど砂浜独占状態です♪

着替えてさっそく海へ……。まだ時期的に少々寒かったけど、少し経てば慣れたもの。ひたすら泳ぎ続けます(▽^ 去年は確か台風の次の日とかだったので波がものすごかったですが、今年はヒジョーに穏やかな海。遊ぶ分にはちょっと激しい方がいいんやけどなあ^^

岩場の方に近づいてみると、巻き貝やらカニやらが結構いますね。みんなで探索しました。来年はもう少し暑くなってから行きたいなあ☆ (今)



波打ち際でのようす。広い砂浜を独占してました☆

<藤川選手に招待された!>

4月15日、阪神タイガースの藤川球児選手に招待されて、子どもたちと野球を見に行きました☆「何らかの事情で学校へ行けない子どもたちに何かできることはないか」ということで、藤川選手からフリースクールの子どもたちに声をかけていただきました。

そしてそして、試合前に藤川選手にお会いできました! 実際見る藤川選手は・・・やっぱり大きいです(◇^! 180cm超える人とかは見たことあるけど、筋肉のつきが違う! 身長以上に大きく見えました。ほんの10分ぐらいの時間でしたが、最後に記念撮影もしていただき、非常に貴重な時間でした。藤川選手、本当にありがとうございました!

そのあと観戦した試合は...阪神の大勝です! ま、大勝すぎて逆に藤川選手の出番はなかったわけですが(^^^;) (今)



藤川選手との記念写真。とてもいい思い出になりました。

<全国合宿とザ・ブルーハーツ>

毎年恒例、フリースクール全国ネットワークの全国合宿に行ってきました。

今回のメインはバンド活動。ザ・ブルーハーツの元ドラマー、梶原徹也さんが来るということで、ハイテンションで乗り込みました! そしてみなもの誇るベーシスト・おにさんが梶原さんと一緒にセッション、梶原さんの隣で演奏してきました! うひよ〜☆ し

かし、見れば見るほどプロのテクってすげ〜。(今)

◆作成、いよいよ佳境 ～「大阪府・不登校相談機関情報誌」

これまでの経過

ドコモ市民活動助成を受けて、昨年11月から「不登校相談機関情報誌作成」の活動がスタートしました。年が明けて1月に、「不登校相談機関情報誌作成検討会議」という、漢字ばかりが並ぶ会議名の会議を発足し、フリースクールみなも以外の、不登校に関わりのある方々のご協力をいただいてきました（詳しくは前号の通信をご覧ください）。その会議も、8月30日に第5回目を迎え、会議としては最終回を終えました。現在は、情報誌の完成に向けて、情報誌の構成と掲載情報の整理を行っているところです。

作成のプロセスで感じたこと

情報誌作成に向けて、多くの方々に出会い、ご意見、ご協力をいただきました。会議にご出席いただいた委員の皆様はもちろんのこと、府内で不登校の子どもたちや保護者をサポートしている民間団体の皆様、府教育委員会を含む教育行政に関わる方々、そして、フリースクールみなもに関わる保護者の方々に大変お世話になりました。

この情報誌作成のプロセスの一つに、情報誌掲載団体へ実際に足を運んで調査をするということも含まれています。直接サポート活動をしている皆様のお話を伺いに行くことで、子どもたちへの思い、教育に対する思いがよく理解できました。活動プログラムや活動方針は異なるものの、子どもたちにとってよりよい環境を作り出そうという共通の思いがあるように思います。府内に、暖かいまなざしを持って子どもたちの現在を見守っている大人たちが多くいるということは、当事者である子どもたちやその保護者のみならず、サポートする立場にある私たちも大変心強いように思い

ます。

民間団体が抱える課題

不登校の子どもたちとその保護者をサポートする団体の継続がいかに難しいことなのか、ということもこの情報誌作成プロセスの中でわかりました。ウェブ上では団体名が掲載されている所でも、すでに活動を終えているところが、数多くありました。「もう辞めたんです」と、電話口でお返事いただくことが、この情報誌作成プロセスの中で、何よりもつらいことでした。

民間団体は、活動の継続そのものが大変困難であることは、現在活動を継続している団体であっても、共通の課題と言えるでしょう。なぜなら、調査の中ですべての団体が、「資金面」を課題としてお答えいただいたからです。現在では、公的機関からも「教育支援センター（適応指導教室）」といった居場所が設けられています。公的機関で実施しているとなると、なおさら、民間団体に対する公的な支援は限られます。今回は、ドコモ市民活動財団から助成金をいただいて活動することができました。資金繰りの難しさを、助成金や寄付金を募りながら、何とか乗り越えていく必要があると改めて思いました。

情報誌にかける願い

情報誌作成の目的に、公的機関からも民間団体情報を当事者の手に渡るようにするということが掲げられています。各サポート団体には、情報誌に掲載されているということ、活動の継続に向けた良いプレッシャーとして感じていただけたらと思います。また、不登校の子どもたちやその保護者には、民間団体の活動を知っていただき、活用していただくことで、一人ではない安心感を感じていただき、日々をよりよく暮らしていただけたらと思います。子どもたち、保護者、そしてサポートする人々が出会う機会が多くなることで、「不登校になっても何とかなる」といった心持ちや、不登校から得られるメッセージを、大人はより感じ取れるのではないかと思います。

最後に、情報誌作成にご協力いただいた皆様ありがとうございました。皆様のお手元に情報誌が届くのは11月になってからかもしれません。もうしばらくお待ちください。(中村有美)

◆ 運営レポート

こんにちは、今川です。ここではいつものようにみなもの運営状況をお知らせします。

2007年9月時点での、一ヶ月の主な収支は下表のようになります。

1か月の主な収支(2007年9月時点)

収入		支出	
利用者月会費	310,500	家賃	155,000
		光熱費	12,048
		交通費補助	35,796
		電話代	4,360
		インターネット代	4,892
		消耗品費	1,723
		スタッフ給与	80,000
		借入金返済	20,000
	310,500		313,819

※1 家賃、インターネット代、借入金返済は定額

※2 スタッフ給与は9月実績

※3 その他の項目は、2007年度4～9月平均

※4 助成金会計は除く

[スタッフ報酬] 前回通信発行時点(2007年2月)に403号室を新たに借り足した支出の増加により、しばらくスタッフ給与の支払いが止まっていたことが、9月より支払いを再開できました。まだまだ常勤スタッフ一人あたり約30,000円と、十分な額とは言い難いですが、スタッフの生活を支えるだけの給与を支払えるよう、より一層の努力をしていきたい所です。

[会員数] 2007年9月現在、会員数は20人となっています(通常会員10名、日数限定会員6名、体験

入会2名、休会2名)。とうとう20名を越える規模にまで達したのだな、と、少し感慨深くもあります。また、以前に比べると通常会員の比率が上がってきており、毎日にぎやかな感じになってきました。

[学習の時間] 7月より、11:00～13:00を学習専用の時間として開放しています。これまで13:00～20:00の時間帯の中で、希望された方にはスタッフが学習のサポートをしてきましたが、スタッフの人数や他のイベント等との関係から、なかなか十分なサポートをするには至っていません。そこで、13時までの時間を学習のための時間とし、現在試験的に運用しています。

この時間については事前に予約をしていただき、利用したいという希望がありましたら、その都度スタッフ・ボランティアをコーディネートしていく形となります。また、事前予約がなくても自習室として使っていただくことはいつでも可能です。(今川将征)

◆ 寄稿： 「まんま会」に参加して

とめどなく湧き出る話

アドバイザーであるみかんさん(中尾さん)から紹介していただいて、初めて「みなものまんま会」へ参加させていただいて、はや半年が経ちました。初回はとめどもなく湧き出てくる私の話を全て皆さん聞いて下さり、すっきりとまとめて適切にアドバイス下さるみかんさんがいらして、それまで、何でも話せる友人が身近におらず、人との付き合いも無難な線で距離をおいていた私は、文字通り話が止まらず、こんなに子どものことや家庭のことを意見交換できる場があるなんてと、うれしくなりました。以来、1か月に1回の集まりの日を本当に心待ちにしている私です。

母親失格ではないかと思いつつも、何をすることも言うにも、自信をなくしていた私でしたが、本当に私の身になって、話を聞いてくださるスタッフの人と接しながら、少しずつ自分の位置、立場を取り戻し、他の方

の話にも、えらそうかもしれませんが意見を言えるようになれました。「お前はアカン。アホや」と小さい時から言われ続け、結婚後も主人の威圧感にオドオドしつつ暮らして来て、堂々と自分の言葉を発言する場というものがなく、言うことに自信なくて来ましたが、この半年で、少しずつ、自分を取り戻し、自分自身を認めて落ち着いて生きていける、そんな安定感を持たような気がします。

参加者どうしの交流

一人で抱え込んでいても、堂々めぐりで落ち込むばかりですし、一人で誰かに相談しに行ったとしても、それは一人だけの力でしかありません。でも「まんま会」へ参加すると、多くの参加者の一人として、話をしたり聞いたり、いろいろと情報交換も出来ます。また、広い視野のあるみかんさんからアドバイスをただけて、身も心も軽くなれます。

メーリングリストでのメールの交換もすごく身近で有難いです。一对一のメールしかしたことがなかったので、メーリングリストの交流は新鮮です。また、親しい方とお茶・・・なんて、本当に今まで経験したことがなかったので、毎回、いろいろとおいしいお茶菓子をご用意いただいて感激しています。

余韻の残る居場所

この積み重ねのお陰様か、先日一年ぶりに近くの保育所で開催される不登校親の会の集まりに、2回目の参加をしましたところ、私の話がすごくまとまって、落ち着いて来た感じと言われました。これは本当に定期的に「まんま会」へ集っているお陰様と言う他はありません。又、片道30分強位という恵まれた所から行くことができ、皆さん遠い中來られている様子に、申し訳なくもあります。いつも本当に帰宅時、もうちょっと居たいなという後ろ髪を引かれる思いがあります。それほど居心地の良い場です。そしてまた、自由でホッと出来る場でもあり、それまで他の集まりは、その場限りが多かったのですが、「まんま会」出席後は、

帰路途中、帰宅後も余韻は続くのです。

「まんま会」は、私にとってなくてはならないものに成りました。きつともっと多くの人が、こんな場を求めているのではと思うので、より多くの人に知ってもらいたいと思ったりします。今後とも、よろしくお願ひします。(岩崎智美)

◆コラム：

「本当にそうだったのか、確かめてみて」

子どもたちが気にしていること

最近、子ども達からよく聞く話として、このような話がありました。「自分が以前ある子に言ったことで、その子が傷ついたのではないかと感じて、それが気になってしんどくなって、するとまた他の似たようなことも思い出して、それでどんどんつらくなってくる・・・」。こういうことは私も過去にありまして、つらかったという程ではないですが、かなり気になったことがあったのは確かです。

他にも、「ある人から嫌われたのではないかと気になる」「自分がその子とあることでしんどくなっていることを、その子に言った方がいいのか・・・」「ある子に迷惑をかけているのではないかとということが心の重荷になっている」というようなことも聞きました。

どれも微妙な問題で、解きたい問題であるとは思いますが、ただ、できることとして「フィードバック」ということがあるのではないかと私は思いました。

確かめてみて、それから修正する

「フィードバック」は、辞書によると「あるやり方を修正・改善するために、得られた意見・情報などの結果を原因の側に反映させること」とあります。私自身、教師だったときに授業において、良い授業を作るためにフィードバックを非常に重視していました。いくらかの方法を子どもに試してみて、うまくいったと

思えるものはより多く採用していき、うまくいかなかったと思えるものはより少なくしていく、という方法です。

最近これらのことを考えていて、「子どもらの悩みも、フィードバックを活用することがかなり重要なのではないか」と思いました。具体的には、「・・・ではないか？」と悩んでしまうことに関して、そのまま何もしないのではなく、「実際にそうだったのかどうか、確かめる」ということが重要なのだろう、と。

私自身、過去に「そういえばあのことで、あの人は傷ついたのではなからうか？」と思い悩むことがあったわけですが、その後どうもそうではなかったらしい、ということが自然に分かって、ということが多く重なり、それらのことから、「・・・ではないか？」と悩むことはとりあえずやめておこう、後でその人に確かめてみて、その結果「そうだった」ということが分かればその時は反省して行動を改める、ということが重要なのであって、今、可能性だけについて悩むことはやめた方がいい、という風に思うようになりました。不確かなことについてその可能性を悩んでみても、的はずれである可能性は非常に高いわけです（実際、90%以上はハズレているような気がします）。

同じように、子どもらにとっても、思い悩んでいることについて、「本当にそうだったのか？」ということを確認してみることが、どうも必要であるように思えます。もちろん、自分で「あの時私が言ったあの言葉が、あなたを傷つけたのではないか」と思って気になっているのだけど、どうだった？」と聞くことも難しいですし、あるいは「うん、傷ついた」と答える方も難しいでしょう。でも、友達やあるいは大人に、「気になるからあの子に聞いてみて」という方法もあります。いやむしろ、そっちの方が普通でしょうね。

大人にも大切なフィードバック

こういうことは昔から子どもらの間で、いくらでもあったことだろうとは思いますが、最近はそういうことに対してどうしたらいいのかが、試行錯誤（ひい

てはフィードバック自体）がしにくくなっているのだろう、という気はします。

実はフィードバックということに関して言えば、大人の側にとっても極めて重要な話であるとも思っています。子ども（のみならず誰とでも）との接し方で、ある方法がうまくいかないようなら、それを改めてみるのが重要だと思うのです。あるいは学校との接し方などでもそうでしょう。

子どもらが、「・・・ではないか？」と恐れてとどまっている一方で、大人の側では「・・・に違いない（だから自分は改める必要はない）」ということが横行しているような気がします。必要なのは、「確かめてみる」という、今一步の勇気で、そのために側の人を頼りにしてみることが、実は解決への近道であったりするのかなあ、と思うのです。（松浦豊）

◆ けいじばん

▶ ありがとうございます

2007年4月から9月の間に、新たに賛助会員にご加入いただいた皆さまは、下記の通りです。ここに記して、感謝申し上げます。

なお、ご芳名の記載については幾たびかの確認をしておりますが、万が一お名前のもれがありましたら、ご一報くださいますよう、お願い申し上げます。

【賛助会員】今川知子さま、大傍槻久江さま、林裕子さま

▶ 賛助会員・カンパのお願い

フリースクールみなもは、不登校の子どもたちのための、学校に代わる居場所と学びの場を設け、不登校の子どもを持つ家庭への総合的な支援を行うことを目指して、有志によって設立されたNPO法人（特定非営利活動法人）です。子どもたちやその保護者・家庭にとっての支えとなるべく、スタッフ一同、活動の充実に日々努めています。

しかしながら、もとより営利を目的とした事業ではないので、こうした資金だけで行える活動には、限りがあります。そこで、みなもの活動を応援して下さるかたには、賛助会員への応募をお願いしています。賛助会員の皆さまには、「みなも通信」をお送りさせていただきます。

賛助会費のお支払いは、スタッフに手渡し、または郵便振替で。郵便振替の場合は、「氏名」「住所」「電話番号」「費目（賛助会費として）」「会報への氏名掲載の可否」を備考欄に明記の上、下記の口座まで、お願いいたします。

【賛助会費】1口 3,000円/年（複数口のご応募も歓迎）。振込先：00960-0-204146（加入者名：フリースクールみなも）

➤ 譲ってください！

現在、必要としているものは、下記の通りです。ご家庭にあるもので、現在お使いになっていないものがありましたら、みなもまでご連絡ください（それ以外にも、フリースクールの活動に役立ちそうなものがあれば、ぜひご一報ください）。

【必要なもの】グローブ/練習用のドラムセット/ベース/ギター・ベース用のアンプ/録音周辺機器（ケーブル、ミキサーなど）/調理器具/黒いスーツ/いらなくなった教材/本やCD/ノートパソコン（Windows2000かXPの動くもので）/ビデオカード（グラフィックカード）/各種文房具・事務用品/切手

※賛助会員にご加入いただいた方、ご寄附・ご寄贈をいただいた方につきましては、「みなも通信」にてご芳名を掲載し、お礼とさせていただきます。匿名をご希望の方は、あらかじめ、その旨お申し付けくださいますよう、お願い申し上げます。

➤ ボランティア募集！

フリースクールみなもでは、ボランティアを募集しています。ボランティアをするにあたっては、特に必

要な資格などはありません。子どもたちと一緒に楽しい時間を過ごしたい、という気持ちがあればOKです。ご関心をお持ちの方は、お気軽にみなもまでお問い合わせください。

➤ 「まんま会」のご案内

フリースクールみなもでは、毎月第3土曜日に「みなものまんま会」（不登校の子を持つ親の会）を開いています。「まんま会」は、不登校のお子さんを持つ保護者の皆さんに、お互いの気持ちを共有し合える場を提供することを目指した会です。みなもの会員であるかどうかにかかわらず、どなたにでも参加していただけます。参加をご希望の方は、ぜひお気軽にお問い合わせ下さい。

【概要】日時：毎月第3土曜日の13:30～16:30、場所：フリースクールみなも、参加費：500円（お茶菓子代として）、アドバイザー：中尾安代さん（みかんさん＝結空間代表）

➤ ブログのご紹介

みなもでは、日々のようすを写真付きでブログに書きつづっています。みなも内のようすや外出した時の話、みなもの中で話題になったこと、それから「まんま会」のようすやシンポジウムなどに関することなども書いたりしています。もしよろしければ、一度ご覧ください。書き込みもお気軽にどうぞ！

【アクセス方法】「みなも」ウェブサイトの「トップページ」左のボタン>「みなも日誌 on blog」。アドレスは、<http://minamo.air-nifty.com/blog/>

◆ スタッフひとこと

最近九州出身のボランティアさんが増えています（4人）。ボランティアさん同士は曜日が違うとなかなか会わないけど、一度一堂に会してみると面白いかも！？

（今助）▼八月末からボランティアとしてお邪魔します。幼い頃にこういう場所を必要とした自分なので、

